

## ☆JASV 平成 23 年度活動報告

### 1. 口蹄疫関連の活動

#### JASV 口蹄疫終息 1 周年記念行事

口蹄疫発生時には JASV 会員をはじめ、多くの先生方に殺処分に参加していただき、また、終息後は一早い復興に向け生産者が中心となって立ち上げた新生養豚プロジェクトを応援してきた。会員の中には、もう一度現地に行って冷静な立場で現場を確認したい、養豚家にエールを送りたいという声が高く、9月5日、JASV 口蹄疫終息 1 周年記念行事を開催したところ、日本全国から 38 名の方に参加していただいた。

当日はマイクロバスを貸し切って、JASV が最初に殺処分に入った農場、初発が疑われた牧場、日本で初めて豚で発生した県畜産試験場、埋却地で何度も話題になった県農業大学校、そして再開した 3 ヶ所の農場を回り、最後に川南町役場に戻って畜魂碑に献花をして終了した。夜は、新生養豚プロジェクトのメンバーも加わり、口蹄疫と現地の養豚復興について熱く語り合った。



畜魂碑前で

### 2. 病性鑑定事業

麻布大学の豚病臨床診断センター (PCC) 協力のもとに実施している病性鑑定事業は今年度も継続され、第 5 回 PCC 症例検討会を、12 月 22 日に麻布大学で開催した。特別講演として、国立医薬品食品衛生研究所の小西良子先生をお招きし、「マイコトキシン汚染のリスク評価—公衆衛生と畜産衛生」をテーマに、マイコトキシンの汚染の現状と新しい検査方法についてお話を頂いた。一般発表としては、4 名の会員と 1 名の学生から、PRDC、インフルエンザ、出血性疾患、マイコトキシンについて症例発表の後、参加者で意見交換が行われた。

### 3. ベンチマーキング事業

2004 年から始めたベンチマーキング事業は、今年大きな転換点を迎えることになった。最も大きな変更点は、2011 年から動物衛生研究所 (山根逸郎先生) と JASV の共同研究事

業で PigINFO という新しいソフトを開発したことで、この手法を取り入れながらベンチマーキング事業を進めていくことになった。

また山根先生の専門分野である疫学が加わることにより、疾病、抗生剤やワクチンの使用実績などとベンチマーキングのデータを関連付けることで、更に分析能力は向上し、養豚管理獣医師の汎用性が大きくなるものと考えている。来期は年1回の集計ではなく四半期ごとの集計になり、より細やかな分析が可能になる。

#### 4. 養豚獣医師の育成

本年度も引き続き中央畜産会（家畜衛生対策推進協議会）の産業動物獣医師就業研修と日本獣医師会（獣医療提供体制整備推進検討委員会）の管理獣医師等育成支援事業の受け入れ団体として協力した。学生を対象とした就業研修は夏休みと春休みの期間に、麻布大学、北里大学、北海道大学、岩手大学、酪農学園大学、東京大学、日本大学、の学生19名が、正会員のもとで研修を行った。また、社会人（産業動物獣医師）を対象とした研修も行った。その他、獣医系各大学からの要望に応じて正会員が養豚獣医療や獣医師の業務についての講義を行った。

#### 5. 農林水産省との意見交換会

農林水産省（動物衛生課、畜水産安全管理課）とは例年通り2回の意見交換会を実施し、8月24日（1回目）には放射線、オーエスキー病、家伝法改正などについて、1月25日（2回目）には獣医学生の卒後研修、オーエスキー病、薬事法、家伝法改正などについて話し合いを持った。

#### 6. 賛助会員との個別懇談会

賛助会員とJASV正会員との個別懇談会を、今期は初めて9月6日九州（宮崎）で開催、1月26日（東京）、3月2日（東京）の3回に分けて実施した。

#### 7. 機関誌の発行

11月および5月の年2回、機関誌を発行した。

#### 8. 小委員会の活動

##### 【学術研究に関する委員会】

2回目となる日本豚病研究会、日本豚病臨床研究会、日本養豚開業獣医師協会の合同研究集会を、10月12日、東京・タワーホール船堀で開催した。前回の開催同様、200名を大きく超える参加があり、豚病に関わる研究・臨床の獣医師が一堂に集まって研究発表・情報交換・交流が行われた。

毎年実施している衛生セミナーは3月1日に、東京・笹川記念館で開催した。特別講演として、農水省動物衛生課の伏見啓二先生から「家畜伝染病予防法及び飼養衛生管理基準の改正のポイント」、㈱ピグレッツの渡辺一夫先生からは、昨年日本獣医生命科学大学にて博士号を取得した「豚における秋季流産の発生機序について」について発表して頂いた。また、一般講演は、正会員10名から疾病、HACCP、飼料効率、医薬品、ミニブタなどをテーマとした発表があった。

一昨年、昨年と実施できなかった動物衛生研究所の全面協力による第3回豚病講習会は、8月25日動衛研において開催し、動物衛生研究所の先生方の最新の研究成果、今後の研究動向などを、直に学ぶことができる貴重な機会となった。

昨年6月にスペインのバルセロナで開催された the 6th International Symposium on Emerging and Re-emerging Pig Diseases (国際豚新興病・再興病学会) で、次回開催地として日本が選ばれた。アジアでの開催は初めてであり、加えて日本では初の豚疾病に関する国際学会開催となる。それを受け、JASV 正会員も加わった実行運営委員会を立ち上げ、準備を開始した。2015年6月21日～24日に京都国際会館を会場として開催することを決め、大会長には麻布大学の政岡俊夫学長、実行委員長は大竹聡先生、大会副会長には JASV の大井宗孝代表理事が決定した。2009年に APVS を開催した時のように、各団体が一致団結、協力して開催を成功させたいと願っている。



3 団体合同研究集会で挨拶に立つ津田氏(日本豚病研究会長)、末岡氏(日本豚病臨床研究会長)、大井氏(日本養豚開業獣医師協会代表理事): 左から

#### 【農場 HACCP とアニマルウェルフェアに関する委員会】

2012年4月から農場 HACCP 認証が始まったが、それに先駆け、会員に(社)中央畜産会開催の指導者研修会と審査員研修会への参加を呼びかけた。審査員資格を取得した会員は現在までに10名。JASV も農場 HACCP 認証機関申請に向けて準備作業を開始した。

また、ベーリンガーインゲルハイムベトメディカジャパン(株)および(社)中央畜産会のご協力を得て、養豚獣医療の将来を考える委員会と合同で、海外の HACCP と養豚獣医療のビジネスモデルに関するセミナーを12月1日、2日に開催し、各国における HACCP などの食品衛生に関するあり方について学んだ。

#### 【種豚の衛生に関する委員会】

JPPA の種豚委員会、衛生委員会の会合に、JASV を代表して委員会から数名が出席し、指定種豚場の衛生要件について、①特定疾病(AD、PRRS)の撲滅、②指定種豚場に管理

獣医師を備えることの必要性が明記されることとなった。

#### 【養豚獣医療の将来を考える委員会】

設立当初から、次の世代の養豚獣医師が良い仕事を続けていくためには、経済的な基盤ができていなければいけないと考え、新たな取組みを模索している。

12月1日、2日の両日、ベーリンガーインゲルハイムベトメディカジャパン(株)および(社)日本獣医師会のご協力を得て、オランダ、デンマーク、カナダの先生から、海外における養豚獣医師のビジネスモデルを紹介していただくセミナーを開催した。先生方には多くのヒントをわれわれに提示して頂き、大変有意義な勉強会であった。委員会の次のステップとして、日本の養豚獣医師の現状をアンケート調査し、これを基に再度同じテーマで考える機会を持つべく検討している。

### 9. その他

#### ①宮崎県養豚初任者研修

昨年は口蹄疫の影響が残っていたため宮崎県養豚初任者研修は中止せざるを得なかったが、今年度は2月17日から19日にかけて宮崎大学を会場として3回目となる研修会を開催した。今回からはみやざき養豚生産者協議会(MPC)に加え、宮崎大学農学部獣医学科も共催となり、養豚の生産現場、獣医師、研究・教育者がスクラムを組んで次代の養豚産業の担い手を育てる体制が整ってきた。



宮崎県養豚初任者研修研修参加者と講

師、関係者

#### ②東日本大震災義援金

東日本大震災義援金を会員の皆様に呼びかけたところ、多くの方々から寄付を頂き、その総額478万5000円を被災された会員の皆様にお渡しした。皆様からのお志を頂きましたことを御礼申し上げますと共に被災された方々の一日も早い復興をお祈りしております。